

情報 大阪きょうだいの会例会「きょうだいカフェ」へのお誘い



「障害」という言葉がスティグマ（社会的烙印）として働く世の中では、障害児者とその家族に対して絶えずネガティブ（否定的）な眼差しが注がれています。世間では「美しい家族愛」の物語が語られ、私たちにとっては大きな圧力となり、「生きづらさ」を生み出します。

背景にあるのは「自己責任」「自助努力」という言葉に深く潜む社会意識です。残念ながら、現実社会で日々生きる私たち家族もいつのまにか同じような「ものの見方、考え方」に囚われてしまいがちです。

私たちは人生で様々な困難に出会います。その時々体験や複雑な感情にフタをして頑張っていると厳し

い日々の暮らしの中で追い込まれ、それが許容量を超えると「自分を大切にしたい」「人間らしく生きたい」という気持ちが萎えてくる時があります。「しょうがない。自分が悪いんだ・・・」「自分は誰からも必要とされていない・・・」とだんだん自己評価が低くなっていき、自分を責めるネガティブな思考回路に陥り、そこから離れていくことが困難になります。そして、問題を独りで抱え込み、世の中から孤立してしまいます。

「孤立死」「無理心中」などの悲惨な事件がニュースになるたびに「なぜSOSを出さないのだ・・・」と言う声が周囲から聞こえてきます。しかし、人は自分に自己肯定感がないと「助けて」という言葉はできません。

これは親も、障害のある本人も、きょうだいも同じだと思います。

大阪きょうだいの会は障害児者の兄弟姉妹の自助グループ（セルフヘルプ・グループ）です。老若男女、障害の有無を問わず、誰もが「生きていて良かった」と言えるような世の中であってほしいと願っています。

例会（きょうだいカフェ）は「語りと傾聴」の場です。「きょうだい」としての自分の生きづらさ・悩み・不安などを仲間に話し・聴いてもらう場、もやもやとした感情を吐き出す場、生き直しの場です。そして、自分が抱えている問題を仲間のサポートを受けながら、自分自身で解決の道を探っていくことをめざしています。

私たちが大切にしていることは、「同じ境遇の仲間がいる」「みんな自分の話に真剣に耳を傾けてくれる」「きょうだいの混沌とした感情や思いが一方向的に否定されることがない」「説教されることがない」「ここは安心できる場だ」という参加者の実感です。

毎回の参加者は10名前後の小さな集まりです。年齢は20代～70代と幅広く、女性が少し多いです。

例会の後は、自由参加のアフタートーク（居酒屋での飲み会）も行なっています。よろしかったら足をお運びください。歓迎します。

●第56回例会＝ 3月22日（日）	国 労 大 阪 会 館	2階、第1小会議室	13:15 開場・受付	対象＝概ね18歳以上の障害児者の 兄弟姉妹（きょうだい）に限定 参加費＝1,000円（会場費・資料代・ 通信費など）
●第57回例会＝ 5月24日（日）		2階、第2小会議室	13:30～16:45	

*会 場＝国労大阪会館（大阪市北区錦町2-2、JR大阪環状線「天満」駅から東へ徒歩5分、
☎＝06-6354-0661）

*申込み＝事前に参加のご連絡をいただければ助かります（電話、ショートメール）。当日参加も歓迎です。
【問合せ】大阪きょうだいの会 世話人 090-2384-9368（溝上）